

<b>Title</b>	編集後記
<b>Author</b>	石井 京子
<b>Citation</b>	大阪市立大学看護学雑誌, 6 卷, p.103.
<b>Issue Date</b>	2010-03
<b>ISSN</b>	1349-953X
<b>Type</b>	Others
<b>Textversion</b>	Publisher
<b>Publisher</b>	大阪市立大学大学院看護学研究科
<b>Description</b>	
<b>DOI</b>	

Placed on: Osaka City University

## 編 集 後 記

今年度の大阪市立大学看護学雑誌への当初投稿論文は例年になく多数であり、その積極的姿勢に喜ばしいものを感じた。第6巻には丁寧な査読によって適切にご指摘をいただいた論文6編を掲載することができた。学内研究者のみならず、実習施設の指導者からの投稿も増加していることから、査読についての見直しの必要性が指摘され、今年度内の課題として行う予定である。

この3月には大阪市立大学看護学研究科博士前期課程の第1期生が修了し、4月からは、引き続いて博士後期課程が開設される。今後大きな飛躍を遂げることが期待される看護界の将来を牽引する人材が育っていくことが夢見られるが、その第1歩としての修士論文の積極的な論文投稿が行われることを期待したい。

独立法人としての大阪市立大学は教育と研究、社会貢献などにますますの研鑽が問われている。さらに、今年度からは大学としての組織評価だけでなく、研究者個人についてもその実績評価が求められるようになってきている。このような厳しい課題達成を望まれる中で、大阪市立大学看護学雑誌を教育の効果や臨床における実践に関する1つの報告の場として活用していかれることを期待したい。

石 井 京 子 (2010. 3)

H21 (2009) 年度

編集委員会 委員長	石 井 京 子
委員	都 筑 千 景
	金 谷 志 子
	片 山 恵